

子ども会議を

ふり返る

リレーインタビュー

―世話人を務めた分科会「子どもと地域・環境」を終えての感想は。

分科会では、地域で子どもたちの活動に携わる人々と子どもたち



子育て子育て支援
りんく・いしかわ会長
山城康代さん

■4

の現状を話し合った。今、子どもたちには「時間」「空間」「仲間」の3間がない。子どもは遊びを通して社会性を身につけるが、現在は放課後に子どもが自由に使える時間や安全に遊べる場所が減っている。集まる場所がなくて、仲間

づくりができないのが現状。―子どもにとって遊びとは。友達とぶつかったり、意見の違いを認め合ったりしながら、コミュニケーション能力を高めるために、栄養と同じくらい必要なこと。年齢が異なる子どもと遊ぶと

自由時間づくりの必要

きは、ルールを変えるなど子ども自身が工夫しており、遊びを通して想像力を養い、いたわり合うことを学んでいる。

現在、子どもたちの40%は、学校が終わるとまっすぐ家に帰ると言われている。一人で遊べるゲームができて、学年の異なる子ども同士が遊ぶ機会が少なくなっている。

る。また、大人は子どもが遊ぶことにあまり良い印象を持っておらず、遊ぶ時間があれば塾に通わせたり、習い事をさせたりと、子どものやりたいことと大人がさせたことにギャップがある。

―分科会で、子どもの放課後を真剣に考える必要性が指摘された。今後、求められることは。

学校終了後は子どもが自由に使える時間。まずは、大人が子どもの遊びに対する意識を変えないといけない。学力テストが最下位の沖縄は、ほとんど子どもたちの自由な時間を奪っている気がする。幼いころは「遊び」を通して、子ども同士で社会体験をし、人と人のかかわり方を知る大切な時期ということに気づくことが大事だ。

(聞き手・山城貴奈)